

福浜議員 要望項目一覧

平成28年度5月補正分

要望項目	左 に対する 対応方針等
<p>1 PPP・PFIの推進に向けて</p> <p>県保有施設の管理運営については、PPP・PFIを積極検討すべきと考えます。庁内に検討会（県有施設・資産有効活用戦略会議）が設置されましたが、そのシンクタンク的存在として、国内でトップの見識と実績を持つ東洋大学大学院「公民連携専攻／PPP研究センター」との連携を速やかに取るよう要望します。</p> <p>また、PPPについて本県の場合、指定管理等に留まっていますが、地元民間での受け皿を育成する意味で「勉強会」を開催すべきと考えます。経済団体に呼びかけての早期実施を要望します。</p>	<p>経済団体（商工会議所、商工会、建設業協会）、金融機関、行政（県、市町村）等を対象とした勉強会として、「鳥取県PPP／PFI推進セミナー」を5月16日（月）に開催した。</p> <p>また、東洋大学との連携については、4月に大学を訪問して協議を行ったところであり、今後どのような連携が可能かについて大学側と協議、検討を進めていく。</p>
<p>2 食のみやこ鳥取のさらなる進化に向けて</p> <p>鳥取県の食は、和牛や大山鶏、新甘泉、砂丘ラッキョウ等をはじめとしてブランド化が定着し、県が進めてきた施策の効果が現れています。今後はインバウンドを増やすためにも、県内で提供される「料理の質」を国際的に通用するレベルまで引き上げる必要性を感じます。その起爆剤として「大阪・あべの辻調理師専門学校」（辻調）との協定を要望します。</p> <p>辻調は、鹿児島県長島町、和歌山県など現在5ヶ所の自治体と協定締結や連携を深め「技術向上」「新商品開発」「人材育成」等で、地域活性化に貢献している実績があります。</p> <p>辻調グループはフランスにも分校を持ち、和・洋・中華で約400人の講師陣を擁します。このうち調理師本科長で西洋料理担当の若林知人教授（46）は、鳥取市用瀬町出身で、朝日放送の番組「上沼恵美子のおしゃべりクッキング」担当シェフとしての経験（昨年6月まで）を有し、関西の主婦層に人気を博しています。人脈も広く発信力の高い若林氏に鳥取県の大使に就任頂くよう要望します。</p> <p>また、鳥取県未来人材育成奨学金支援助成金の対象業種を拡大し、「調理師」の追加をご検討頂けないかと思いま</p>	<p>辻調理師専門学校との協定、連携については、まずは、若林氏との面談の機会をもってみたい。その上で協定、連携が可能か、県産品促進に関わる役職と併せて検討していくこととしたい。</p> <p>また、調理師については、現在でも「旅館・ホテル業」に就業された場合は対象としている。飲食物調理職業については人材不足の職種であるため、高度な技術を持った人材の必要性や業界として制度に賛同されるかどうかの意見を聞きながら業種追加についても今後検討する。</p>

要望項目	左 に 対 す る 対 応 方 針 等
<p>す。さらに、シェフとして1人立ちするには最低10年かかると言われています。このため、鳥取に帰るまでの期限延長を含めた助成金制度の改善検討を要望します。</p> <p>(例) 辻調の学費・・・年間200万円程度、2年コースで400万円程度</p>	
<p>3 儲かる農業づくりと農福連携（障がい者雇用推進）に向けて</p> <p>大阪府四条畷市の「(株)グリーンファーム」が考案した「高床式砂栽培」は、“農業は土作りから”という常識を覆す農法として注目されています。主な特徴は、以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①砂が培地のため連作障害が起きず、培地を入れ替える必要がありません。 ②水耕やLED栽培と比較し、ランニングコストが軽減出来ます。 ③高床式ハウス栽培のため、病虫害発生が少なく無農薬を実現できます。 ④高齢者や障がいのある人でも栽培作業に関われます。 ⑤葉物は年間6作～10作で、売上げは米作のおよそ40倍です。 <p>*年間売上げ チンゲン菜の場合1反平均600万円程度</p> <p>先日、県内の認定農業者で10haの圃場を持つ山根二三男氏と現地を視察しましたが、山根氏の評価も非常に高く「是非取り組みたい」と意欲的でした。農業の再生、鳥獣被害に悩む中山間地活性化、若者の農業参入という点から見ても、本腰を入れて導入を検討すべきと考えます。</p> <p>課題は「初期投資」です。ハウス・高床資材・液肥制御機器等で、1500～2000万円程度が必要です。そこでモデル事業として低利融資もしくは補助制度の検討を要望します。</p>	<p>「高床式砂栽培」について、初期投資が多額となることに加え、本県気象条件の下では十分な収穫量が得られない懸念もあることから、導入に際して慎重な検討が必要と考えているが、まずは生産者の御意見等伺いながら、県としてどのような支援が可能かどうか検討することとしたい。</p>
<p>4 再生可能エネルギー普及に向けて</p> <p>鳥取大学大学院工学研究科の松原雄平教授が若桜町と組んで実施している簡易式小水力発電は、自転車のホイール</p>	<p>県では地域資源を活用した多様な再生可能エネルギーの導入を推進することで、エネルギーを活用した地域振興やエネルギーの地産地消を進めているところである。</p> <p>若桜町による簡易式小水力発電の取り組みは、地元の資源を有効活用したエネルギーの地産地消の取</p>

要望項目	左 に 対 す る 対 応 方 針 等
<p>に羽根を付けた水車の形態で、氷ノ山「樹氷スノーピア」の玄関照明等に活用されています。出力は5台で20ワット程度ですが、設備投資費が10万円前後と非常に格安です。</p> <p>若桜町と同様の水路がある県内の中山間地をピックアップし、簡易式の小水力発電装置の普及を図るよう要望します。</p>	<p>り組みであり、このような取り組みを推進するため、体制づくり・事業計画策定・事業実行の各フェイズに合わせて支援を行う制度をすでに整備しており、市町村等と連携しながら同支援制度の活用を促していきたい。</p>